



2023 年 9 月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.127)

昨今のスポーツ現場で起きていることは、スポーツに関わる者として考えさせられます。些細な行動が大きな問題に発展し、後々まで行為者以外に影響を及ぼしたり、違法行為が行われたため、組織全体の信用が失われかねない状況に陥っています。事の收拾には時間と労力が掛かる事でしょう。

こうした事件が起きてしまう原因は何かを考えたとき、まず初めに浮かんできた言葉が“倫理観”です。スポーツに携わる前に“人”としてどう在るべきか、という意識です。

私たちは、人という“個”が寄り集まって“社会”を形成していると思います。その“社会”を維持していくためには一定の約束事がないと成り立たないでしょう。この約束事が“ルール”であると解釈します。

“ルール”が機能するにはそこに所属する“個”同士が認め合うことから始まります。すなわち、相手を尊重することが大前提になると思います。

こうして考えると周りを傷つけたり不利な状況に追い込むことがあってはならないのです。

テニスにはセルフジャッジという文化があります。セルフジャッジにおいてはお互いの信頼関係が無いと成立しません。いうなれば相手を敬っているからこそ成立するのだと思います。そして自らを律しているからこそ出来ることだと思います。

先日、かごしま特別国体の関東ブロック予選がありました。栃木県は男子が該当し、埼玉県大宮第2公園で試合をしてきました。結果は6位で鹿児島国体への権利を獲得しました。

関ブロはいつも8月の猛暑の中での激闘です。半分熱中症との闘いかもしれません。選手はもちろんですが、それを支える国体委員会の委員やトレーナーのサポートもあり、目標を達成することができました。ありがとうございました。

選手たちに望むことは、その支えを忘れず実力を発揮していただきたいと思います。

同時に栃木県を代表しているという自覚を持ってください。普段の行動が見られています。服装、マナー、言葉遣いすべてが備わっていて一流なのです。

最後に、この TTA レポートは不定期的に更新していきます。

